

6. モモの樹体ジョイント仕立てによる早期成園化と栽培管理の省力化

1. 背景とねらい

モモの生産には、整枝・せん定等の精密な管理技術に経験を要するため、技術の継承が進まず、栽培面積が年々減少しています。そこで、後継者、新規の生産者や雇用者でも、従来の仕立て法と比較して単純かつ省力的に栽培管理できるモモの樹体ジョイント仕立てを開発しています。ここでは、定植 4 年目までの樹体ジョイント仕立ての早期成園効果と栽培管理作業の省力性について、一文字形整枝を対照として比較しました（図 1）。

2. 成果の内容

- 1) 樹体ジョイント仕立てにおける定植 4 年目までの果実形質は、一文字形整枝と同等です（表 1）。
- 2) 樹体ジョイント仕立てでは、定植 3 年目に 10 a 当たり収量が 2 t を超え、早期に成園化します（図 2）。また、主枝高を棚面より 30 cm 下げた樹形（ジョイント仕立て I 区）において、定植 4 年目までのほ場面積当たり累積収量が最も多くなります（図 2）。
- 3) せん定作業時間は主枝高を棚面より 30 cm 下げた樹形（ジョイント仕立て I 区）において短く（図 3）、栽培管理を省力化できます。
- 4) 以上の結果から、モモの樹体ジョイント仕立ては、一文字形整枝と比較して初期収量が多く、栽培管理を省力化できるので優れると考えられます。特に、ジョイント仕立ての樹形としては、収量および省力の観点から、主枝高を棚面より 30 cm 下げた樹形（ジョイント仕立て I 区）が適していると考えられます。

3. 普及上の留意点

- 1) この技術については、栽培マニュアルを作成し、果樹研究部において配布していますので、導入を検討される際にはご相談ください。

(果樹研究部)

4. 具体的データ

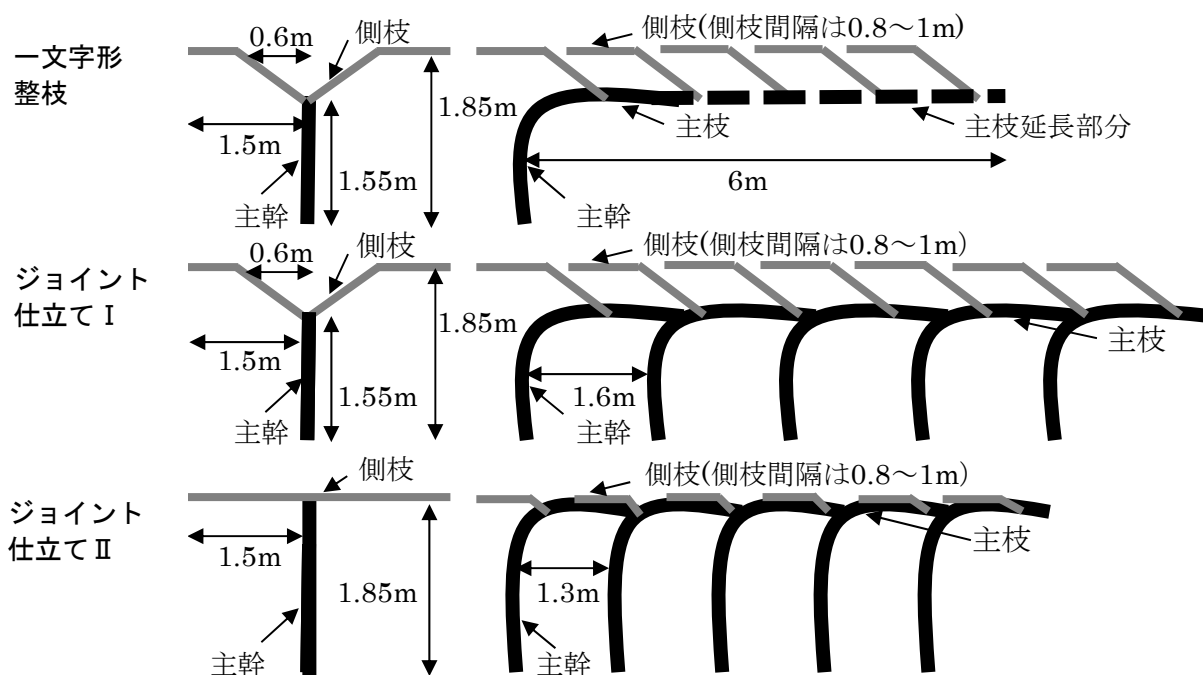


図1 比較したモモの仕立て法の模式図(2013年)

表1 モモ「あかつき」における仕立て法が果実形質に及ぼす影響(2013年)

仕立て法	定植3年目		定植4年目	
	果実重(g)	糖度(°Brix)	果実重(g)	糖度(°Brix)
一文字形整枝	226	13.0	251	13.8
ジョイント仕立て I	221	13.0	241	14.1
ジョイント仕立て II	222	13.5	252	13.7

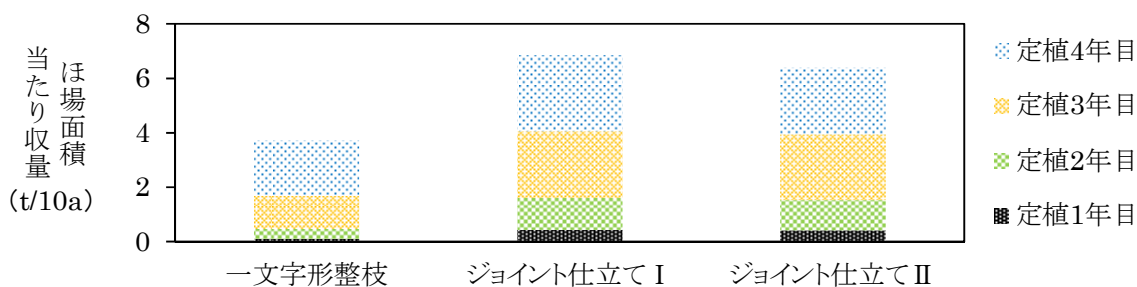


図2 モモ「あかつき」における仕立て法が収量に及ぼす影響(2013年)

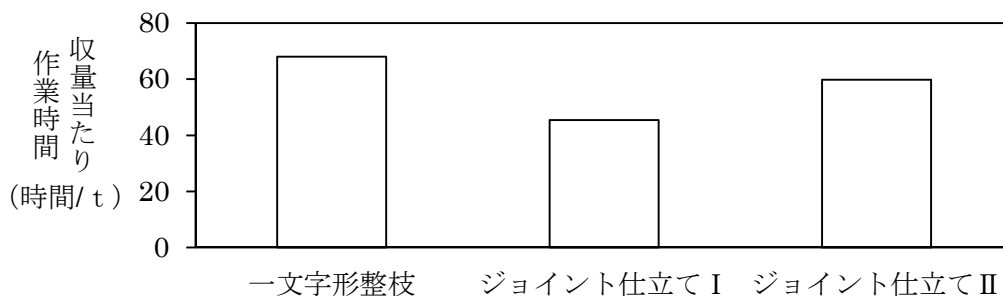


図3 モモ「あかつき」における仕立て法がせん定作業時間に及ぼす影響(2013年)

本研究は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（課題名：果樹の樹体ジョイント仕立てを核とした省力、低コスト栽培システムの開発）において実施しました。